
朝の戦い

R A N

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

朝の戦い

【コード】

N8531V

【作者名】

RAN

【あらすじ】

部活の朝練習に行くのに、もう起きなければいけない時間。しかし、瞭は起きてこない。さて、理紗はどうする？

dノベ転載 「惑う星達」の瞭と理紗の中学生番外編です。

(前書き)

「惑う星達」の瞭と理紗の中学生番外編です。

現在、朝の五時半。

瞭は今日、バスケット部に入って初めての朝練習だ。

そろそろ起きないと瞭はその朝練習に間に合わない。

一年生は始まる前に行って、準備をしなければならぬ。

「理紗ちゃん、お願い。私、手が離せないの」

理紗の心理を察したかのように、白河家母　京子はそう言った。

「あ、はい、わかりました」

京子に言われ、理紗は瞭の部屋へと向かった。

部屋へ着き、扉を開ける。

瞭はぐっすりと寝入っていた。

彼は朝に弱く、起こそうとしてもなかなか起きてくれない。

すでに目覚まし時計は鳴っていた。かなり音を大きくしていたので、部屋からもれていた。

それを止めたのも聞いた。だから彼は起きていいはずなのだが。

彼には、目覚まし時計はあってないものだった。

瞭が朝早い遠足などの時は、よく眠たそうな顔をしていたし、親達の会話からそうなのではないかとわかってはいたが、改めて見ると心境はまた違った。

今日はバスケット部に入って本格的な初めての練習だ。

理紗は再度確認する。

そうしないと、こんなに気持ちよさそうに寝ている瞭を起こすのはためらわれたからだ。

遅刻はさすがにまずいだろう。

「何す……!!」
瞭がくすぐった犯人の方へ顔を向けると、そこには理紗がいた。
てつきり母親かと思っていた瞭は一瞬思考が停止し、言葉が止ま
ってしまった。

「……り、理紗!? な、ななな何で……!!」
とりあえず現状を把握した瞭だが、かなり動揺している。
「瞭、それより朝練に間に合わないよ。早く支度してね」
理紗は瞭が起きたことを確認すると、笑顔でそう言い残して部屋
を出て行った。

「……………」
瞭は少しの間、理紗が出て行った扉を見ていたが、そんな場合で
はないと気づき、慌てて朝の支度を始めた。
好きな女の子が部屋に入ってきたことに、動揺する気持ちを処理
する方法を考えながら。

「母さん! 何で理紗が俺の部屋に入ってきたのさ!」
支度を終わてくると、瞭は理紗に聞こえないように、母に言った。
京子は優しい笑みをうかべてこう言った。
「母さんは忙しいのよ。」
理紗ちゃんに起こしてほしくないなら、あんたが早く起きればい
いでしょ?」

「……………」
瞭は何も言えなくなった。

言っていることはもっともだったし、なにより、その笑顔の裏に何かあるようで怖かったからだ。

それから、瞭が理紗よりも早く起きるようになったのは言うまでもない。

彼の朝は戦いになった。

RAN

2006/1/21

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8531v/>

朝の戦い

2011年9月3日06時39分発行